

早来中学校再建事業 基本計画

施設計画の目標（案）
～「みんなの学校」を目指して～

新しい学校づくりの基本コンセプトである「みんなの学校」の下、検討部会や考える会などを通じたさまざまな想いや意見を受けとめ、みんなの学校を具体化する学校施設の計画目標を定める。

○児童・生徒・町民を迎えるアプローチ空間をつくる

- ・安平町の郷土の自然や文化を感じることのできるアプローチとする。
- ・冬季の除雪など、気候風土を踏まえた管理のしやすいアプローチとする。
- ・地域の人々が学校を意識することなく気軽に訪れやすいアプローチとする。

○さまざまな活動がのびのびとできる屋外環境をつくる

- ・様々なスポーツに親しむことができる屋外環境とする。
- ・既存の立地（丘・小川・森）を生かし、様々な教育活動に利用できるようにする。
- ・環境負荷の低減や自然との共生を考慮した屋外施設とする。

○児童生徒や地域住民にとって誇りを感じられる校舎をつくる（外観、内装）

- ・従来の学校デザインではなく、地域におけるシンボルとして町民や児童生徒にとって誇りに感じることのできる外観とする。
- ・温かさと居心地の良さを感じられ、安平町の文化や自然を取り込んだ内装とする。

○気候風土を踏まえ、すべての人にとって使いやすい校舎をつくる（機能）

- ・厳しい自然環境から利用者を守るシェルターとして、温かく快適に過ごせる校舎とする。
- ・全ての人にとって分かりやすく使いやすいバリアフリーな校舎機能とする。
- ・安心で安全なセキュリティ体制を構築し、児童生徒や地域の人々の居場所として機能する校舎とする。

○自ら学びたくなる教室をつくる

- ・クラスや学年、学校を超えた多様な交流活動や協同的・対話的な活動に取り組める教室や教室まわりの環境を用意する。
- ・次世代技術（AI・インターネット）による新しい学びの仕組みに対応した、一斉指導に留まらない教育方法を支援する施設環境を用意する。
- ・学級増にも柔軟に対応できる教室空間とする。
- ・様々な困難を抱えた児童生徒の学びと生活を保障する教室空間を確保する。
- ・教科担任制となる中学校では教科の魅力を活かして学習への興味・関心を高めながら教科学習の充実を図ることができる教科センター方式の採用を検討する。

○小規模校の課題を克服し、充実した活動ができる実験・実習の場をつくる

- ・特別教室を関連付けて配置したり、オープンスペースを組み合わせたりすることで、教室単体では行えない活動を生み出せるようにする。
- ・小中学校や地域で特別教室を共用できるようにすることにより、高機能化・多機能化を図るとともに、利用率向上を図る。
- ・本格的な機能を兼ね備え、児童生徒や地域住民が本物に触れることのできる空間の工夫を図る。

○児童生徒と町民が共に図書に親しみ、交流できる学校図書館をつくる

- ・存分に本やインターネット(資料)に親しめる居心地の良い図書館とする。
- ・児童生徒と町民が共に資料に親しみながら、自然に交流し、ともに学び合える図書館とする。
- ・国内外の様々な文化や知識、情報を得られるような図書館とする。

○スポーツを中心に多様な教育活動を行うことができる体育館をつくる

- ・様々なスポーツに親しむことができる体育館とする。
- ・スポーツを文化として捉え競技や運動に限らずスポーツを通して学びが得られる配慮をする。
- ・児童生徒や地域の人が学習や活動の成果を発表する場として利用できるアリーナとする。

○誰もが居心地よく、楽しく過ごせる生活環境をつくる

- ・道産木材を使用し、温もりや潤いのある施設環境とする。
- ・さまざまな利用者が負担なく利用できるバリアフリー環境を整える。
- ・児童生徒が自分自身で学校環境を魅力化することのできる校舎内空間を整える。

○教職員や地域の支援者との連携・協働を支援する校務センターをつくる

- ・ICTを活用し、校務が効率的に行える執務作業環境とする。
- ・教職員同士の連携・協働を促進するためのスペースや環境を確保する。
- ・地域や遠隔地の学校や人材との協働などを促進する環境を確保する。

○心身の発達段階に配慮した健康教育の拠点となる保健室をつくる

- ・児童生徒の発達段階の相違に応じ、一人ひとりが安心して休める保健室の環境をつくる。
- ・児童生徒を温かく迎える相談スペースを用意する。
- ・校務センターや校庭、体育館、各教室から訪れやすいとともに、落ち着ける場所に配置する。

○ふるさと教育の一環として、地域に開かれた学校をつくる

- ・保護者、地域住民、ボランティアと学校の連携を支援する環境を整える。
- ・日常的に児童生徒と町民の自然な交流が生まれ、活動の様子が互いに見えたり、場所を共有したりできるようにする。

○環境の変化に柔軟に対応し、永く愛され大切に使い続けられる「サステイナブル・スクール」をつくる

- ・環境負荷の低減や自然との共生を考慮した学校施設として整備する
- ・設備等の更新が行いやすく、将来、用途転用が必要となった場合にも対応しやすいフレキシビリティを確保する。
- ・省エネルギーで快適に過ごしやすいようにする。